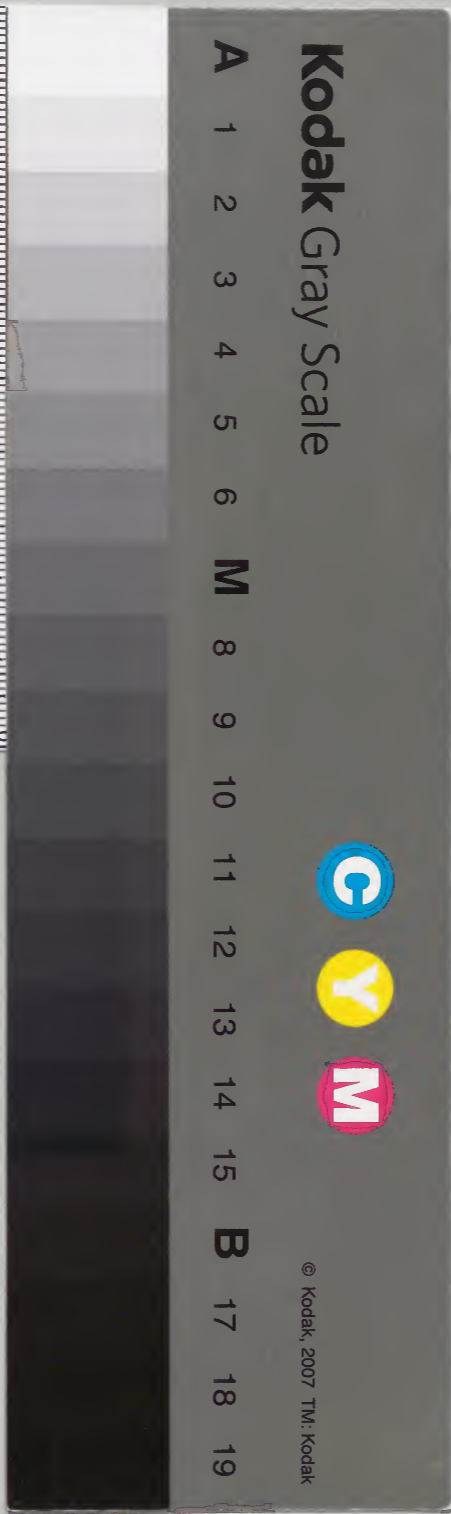


静岡縣史料

縣治紀事調査材料 三十七

庫文閣内		和書
函架	三五冊	
		五九〇一七號



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

縣治紀事本末調材料

三

湯次郎書本志關於

九月十日 郵便局 願書



今般富國賀茂郡蓮臺寺村、更ニ更ニ其九
大區投所御設置相成候事、御廳往復
御用状、勿論各小區公用状、至ハ近下田町郵
便局ヨリ配達相成候事、自然時間之遷延致
シ急御用或ハ御呼出し等之節御差支リ生
且ハ御定規之増稅粘用致シ修儀多ク多少
民費ニ相響奉、以其不便言テ俟サル候事、向
常蓮臺寺村之儀ハ従前郵便局有之、下田
町算作村、中央殊ニ近村三四ヶ村モ有之、且ハ私

降 同 係

用便回り得修へ不少修間前頭之段何卒駄
進寮御上中御許可相成修棟仕度依之駄進
寮御上中御許可相成修棟仕度依之畜村内
右取扱後至富之者有之修間別紙探舉書
兼工程座繪圖面相添此段奉願上修也

區長

木村恒太郎

明治九年十月十四日

依田佐二平

兼同縣令大田倉備後

御下下三列執海之郵便為替取間可相成之
如回邦便取扱後人物別不都モ之ハ
其其身ハ傳之相聞之果コト然ルモ否ハ疑
保ハ實際取調之同入ナリ他人ナリ至高之
人物モ探舉之ハ外為替向同棟保証及抵
寄物等取調有之度此段及奉照合

此

取進頭代理

明治九年八月五日

取進助

兼司系

大正青田縣令殿

Faint handwritten text, likely the main body of a letter or official document, mostly illegible due to fading.

青田町一丁目國賀茂郡裕取村郵便局一箇同業
太郎ヨリ同郡廣井寺村ニ大區扱所建設ニ
以テ進送ノニ度數申立ニ通テ詳可相成ニ
人ノ民ニ便利相成ニ右ノ先般廣井寺村ニ
郵便局ノ建設有之ニ度該區ノ長共ヨリ
願出ニ全及申照會ニ通シ右ノ兩案共ニ
然テ該議有之度、將該村最寄郵便局之位
置租繪圖相製ニ送致ニ致旨ヲ兼別紙
之通略繪圖及裕取村郵便局ヨリ送付ス



願書其相保此後乃得回若保也

薛同野合大内自是後

明治九年八月

夫之子毛和若助

取進路前島家心証

取進路前島家心証

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

河竹下河内國^傳高野村之郵便局設置之儀

前別紙添紙ノ下ニ有ハ拾ノ事ヲ以テ路會

ノ類ノ事致ハカニ未キニ圖該村ノ郵便局

順序ノ可相運カテ運基寺村ノ下田築作郵

便線ノ中央ナル年或ハ其線路中ニ不抱シテ

便局ノ郵便局ヨリ往復ノ積脚夫任便情

書取之回数等事取極々尙事申越有之度

尤ノ前々事々ノ事々河竹下下宿取郵便局各

開中書相添紙ノ事々々々一貳千四百高下ヲ

以及御高議、聞之、如法往途中、行遠之我、
小、可、聞、是、并、便、者、等、同、時、請、下、也、有、之、度、
此、頃、及、回、答、也、

取、進、額、代、理、大、司、前

九、年、八、月、十、五、日

道、中、取、進、助、

大、進、藤、原、公、敏

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

驛、進、察、二、回、報

本、縣、上、下、里、別、熱、海、の、郵、便、為、替、取、
開、可、相、成、之、處、同、地、郵、便、向、取、扱、役、人、物、
不、都、合、今、之、入、共、至、一、身、元、簿、之、中、
開、也、成、之、處、以、之、由、照、會、之、類、也、之、類、
右、の、該、區、正、副、區、戸、長、の、相、違、一、知、別、紙、之、通、
申、之、保、証、及、抵、當、物、ホ、之、格、別、差、支、付、者、也、
無、之、一、申、之、一、申、人、之、命、一、様、致、度、此、頃、
及、由、回、報、也、

九、年、八、月、十、五、日

藤、原、公、敏、大、進、自、信

靜岡縣

驛所頭殿代

真中 駒込 助殿

[Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible]

本縣下伊國郡之島取四等郵便
扱役山口佐左衛門より別紙之通申立奉實取
札取札如相違之旨願日開届之上跡役
渡邊作平治に被命度旨知照候より申立之
満應之人物申立之通馬中白相成度此紙
別紙相係及申照會候也

明治九年八月

靜岡縣令大迫直清

前島 駒込 頭代

真中 駒込 助殿

靜岡縣

辭職願

辭職願書

何國國長

山口佐左衛門

山口佐左衛門

私儀是迄回奉郵便取扱後奉命奉職罷在

此漸之老衰加之積年之宿病連之貴作

此儀之到底勤務之成業之何卒職務

所免之願一様代願上儀也

山口佐左衛門

山口佐左衛門

明治九年八月廿四日

取進頭前島密殿

此書願十一日相續之儀也

同取

山口佐左衛門

山口佐左衛門

山口佐左衛門

郵便取扱後櫻奉右一如此

山口佐左衛門

山口佐左衛門

山口佐左衛門

右者平素之行及家産等之相應高器之

山口佐左衛門

靜岡縣

人物、山口佐左門後役、櫻井信俊等
庸有之、殊致度比段上申仕知

天正大正廿年

副官

西木原守兵衛

浦丈八郎

副官

遠々陸丈作

靜岡縣令大迫貞清殿

此書、敬之、藤了、殊致し、後則、未予、通交

御管下之島部、便取扱後、免後願出、俸後役、撰
摺、可取計、一得、井一般、局替、向、領布、之、都合、有
之、形、做、後役、撰、奉、相成、一、若、是、印
鑑、四百枚、及、別紙、本文、之、如、為、替、取、扱、日
兼、議、受、書、取、之、請、是、向、相成、度、由、上、之、任
免、辭、令、可、是、通、回、答、旁、此、段、及、申、挂、合、也

九年九月九日

前島町頭

大迫靜岡縣令殿

靜岡系

靜岡縣

本縣下豆別箱取村ヨリ大川ハ橋野ニ向地ヲ經テ昔
田村ニ至ル程昔テ合計ニ程ニ和成居ル毎地間
之内訊程道ニ箱取村郵便取扱後ニ下間
之処合計十里或一ノ計程ヲ差出ニ趣ラ以實否
得照入會ニヨリテ承里程ノ後ハ承テ郵便
線路略圖ヲ製シ得察ニ差出シ右ノ圖ニ
ハ其ノ乃念ノ註述ニ長ニ相違ハ如更ニ實地踏
密取調別紙甲印ノ偏申出ル箱取村郵
便局ニ右差違ノ紛相糺ル処ニ印ノ通申

本縣下豆別箱取村ヨリ大川ハ橋野ニ向地ヲ經テ昔
田村ニ至ル程昔テ合計ニ程ニ和成居ル毎地間
之内訊程道ニ箱取村郵便取扱後ニ下間
之処合計十里或一ノ計程ヲ差出ニ趣ラ以實否
得照入會ニヨリテ承里程ノ後ハ承テ郵便
線路略圖ヲ製シ得察ニ差出シ右ノ圖ニ
ハ其ノ乃念ノ註述ニ長ニ相違ハ如更ニ實地踏
密取調別紙甲印ノ偏申出ル箱取村郵
便局ニ右差違ノ紛相糺ル処ニ印ノ通申

靜岡縣

之全今般圖正日取調是也其程相違を
之百有之其集紙を各郵便局設置し
略同進送致置之國中右程正し
右様歩之其方之度此紙及書回答也

明治九年九月

靜岡縣令大迫貞清

郵傳省頭大野

郵傳省頭大野

本縣管下向國之島取郵便取扱役辭職
之願書届般及書送置一処後復櫻奉
致之者之印鑑一般及替局之街領布之部
合之有之之印鑑四百枚及為替取扱承
諾受書取之其是之國之街省書照會之類了
兼本人之相違一處之明文之通是也之別紙印
鑑相違此紙及書回答也

明治九年九月

靜岡縣令大迫貞清

郵傳省頭大野

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

御下之島邦便取扱後變換之候に付後
便、御撰奉相成信渡邊依平次請書印鑑
奉添申敷之趣了奉則仕免取計辭令
四通令子入書狀取扱免許印鑑見合ハレ貳
葉美進、奉達方御處令之末諸品者別紙
請紙届書筆文、做、辭令請書書印鑑
共取之御差及趣有之度
一、為換取扱者印鑑頒布之都合有之候間
辭令御渡日凡十五日之後施行之積且

為傳習之義、四取扱、相受、採馬道
有之度、
一 採高物、高取扱役之振合、準し為是出
本言、銜縣之步預、
及及回文、
九月十一日、

前嶋 駒進 頭

大迫 靜 國 整 之 殿

追う本文郵便局所屬者記役之交替可致
見込之新取扱役之信任スヘキ者初撰其
者之族若籍宿所姓名年齢等一層出旨申上達
方々度此中係ル也

四等郵便局取扱役

渡邊 佐平 次

甚地郵便局四等郵便局

駒進 一 察

明治九年十月一日

四等郵便取扱役

渡邊 佐平 次

為申年當一月五日采筆紙學科全七拾二錢

但亦又申年當一錢一口采筆全五拾五錢之計

ヲ以テ、各事紙料共給テ、經費渡金之内
ヨリ引出出納計表、仕組可成也

明治九年十月十一日 縣頭前島密

渡邊信年次

四等郵便取扱役中

右内務卿ノ命ヲ以テ相違無

明治九年十月十一日 縣頭前島密

御管下稲取郵便局ヨリニ開申之可ク、依リ
過般及所照會、如ク千七百ノ拾五号ノ以別紙
繪圖而等添綴々御回答之趣了奉致シ、
右ノ内運書、村ノ郵便局設置ノ案、未
ホノ通可取計積高、奉戴貳千六百貳拾号ヲ以
及御答書ノ如ク復行違々同前等事、
越前ノ是、照シ各地往復順、序業ヲ改メテ
及御請議、依前ノ如ク
一 稲取ヨリ宇佐美通ヲ並山間ノ一線往復、
數ハ姑シ此線ノ通据置更ニ稲取ヨリ澤田間、
邦

便通線每二四八十一日稻取ヨリ澤田ヲ經利本ニ
往復之都合ニ致シ尤稻取ニ於テハ並山ヨリ毎日
午之阿六時發之郵便利本ニ到著時間ヲ量リ同地ニ
脚夫差位郵便物受取持戻此往返共澤田ニ立
寄可同所到著ヲ相心得積リ

但從前沢田ヨリ利本ニ往復便ハ相廢レシ
一 所書蓮臺寺村ニ開局ニ際下田ヨリ箕作間從前
之線路ヲ廢止下田ヨリ蓮臺寺ヲ經箕作ニ達
スル線路ニ交換右下田箕作互地到之脚夫上下
通行ニ於蓮臺寺ニ寄リ郵便物受渡方等

取計ノ積

但本文兩地脚夫ノ便ヲ不要事

中ノ通更止改テ街思フ存モ余ノノ得ニ各日間ノ
距離街取調及脚夫賃請書共街廻送有
之度此段及街照會也

一 九年八月十七日 上野島取進頭

大田靜岡縣令殿

駅通審工四答左ノ如シ

去月十七日所ヲ以本縣下町列下町町及稻取
村等之郵便線路御更正云々御照會之
件之支々了承致、此等因詳合

一 稻取村ヨリ宇作美通リ逃山間之一線往復ハ姑
リ先親之通更ニ稻取ヨリ澤田ヲ經利本ニ
往復ノ都合ニ致シ稻取ニ於テハ逃山ヨリ毎日午
前六時條ノ郵便利本ニ到着時間ヲ四里同
地ニ脚夫差之郵便物受取持戻此往復共
田之通更

但從前澤田ヨリ利本ニ往復便ニ廢止

一 蓮臺寺村之郵便局御設置之際下田ヨリ
箕作間從前之線路ヲ廢止下田ヨリ蓮臺
ヲ經箕作ニ達スル線路ニ變換云々等々照一
會ノ趣御異存云々之人民一般ノ便利ハ過日未
申之通各遠之御更正有之度依之各地間
之距離及脚夫賃共取調別紙之通申之
ハ此段及御四答仰也

明治九年九月

靜海縣令大迫貞清

駅通頭高島密殿

靜海縣

Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

第九大區の長は達し左如し

第一中支之通運 其寺村之郵便局設置吉

村平十郎之七号 郵便取扱中付之相成右録令

其他諸規則書類及切手共別紙月録之通差

廻、条本人之達方夫之取計之未依例規借

書取之可差廻子

但郵便御用之向記載を従之可差廻子

一該局之可相渡郵便函掛札提灯製造代トシテ

金高四諸費繰替令 二テ積載因不日内國通

運會社便ヲ以直千二下渡し可相成、八共四金

之都合有之自然開局之間、不合節、取扱
 役之手許、於一時之務諸事、各是支様手
 配可致、
 一 往復方法、從前下田より箕作ヲ經利本、通
 スル線路中下田箕作間ヲ廢線シ下田より蓮
 臺寺ヲ經箕作工更、通線下田利本互地
 祭ノ脚夫上下通行之際往復之限リ蓮臺
 寺工之寄郵便物齎者ヲ相心得丸右兩地之
 脚夫箕作工之寄、後凡總之圖
 下田利本間里程四里二十一丁四十一間貳尺脚

夫貸金家主錢之割ヲ以テ度各貳拾
 之錢之兩地給子可有之管
 右之件ニ相違儀

Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

静岡國知事郡ノ隣村邦使向信書付後ノ候ハ
是向ノ年ハ十日ヲ以テ志事ノ係如古口數ニシテ公
私事務ノ信書ノ送ルハ自然信夫ノ用ニシテ候行
方今御手紙ノ相付ノ日又費事ナリモ差違
ノ事備ハテ送付ノ事ハ所屬ノ事ノノ願ハ
事備相付ノ事ノ一候ハ事同モ事以候及
ノ事送付用方ノ事

明治九年五月

静岡縣令大河内清

外野野田頭ノ役

静岡縣

Handwritten text in vertical columns, likely a list or record of events or regulations. The text is faint and difficult to read in detail.

- 一 御下郡便路更止等之義百六十三
- 百三十三号以別紙書類添付回答之趣領承
- 致し、右等照會濟之等、來十一月二日、實
- 施、致、条、下、件、之、趣、付、了、永、有、之、度、
- 一 蓮臺寺之五等郡便局設置吉村平十郎之
- 七等郡便取扱役申付右辞令其他諸規則
- 書類紙月録之通御四中限条達し方
- 御處分之末依例諸書取之御送付有之度
- 一 右御達方、接近郡便局下田近郡送夫、り別

脚夫ヲ以御達此賃錢ハ下田、於テ操替金之
 内ヨリ仕拂甚定表臨時經費之部ニ廻入
 其訳付箋改シ可差出前御達有之度
 一 津島寺ニ一和渡邦便函掛札提灯製造代
 トシテ金卷同諸費釋令ニテ月分貳圓不日内國
 通運會社便ヲ以直ニ一和渡ハ共廻金之都合
 有之自然間向之間、不合節ハ取扱役ノ手元
 於テ一時之器同渡ノ手元又様手配ニ致
 置之御達有之度
 一 往復可儀ニ往可下田ヨリ賃作ヲ經利本ノ通スル

線路中トヨ算作間ニ發續ト下田ヨリ津島
 寺ヲ經算作ノ更、通線ト田利下互地發之脚
 夫上下通行ノ降往便、派ノ津島寺ノ更、同邦
 便物發着ノ相心得尤右商地ノ脚夫賃作ノ更、
 候ニ共親ノ通有之可儀積
 他ト田利中間に權同利ト可下田拾圓貳圓
 脚夫賃金會家主錢ノ割ヲ以各度ノ貳拾三
 錢ノ商地ニ給與一致積右請書取之更、
 有之度
 一 右往復方法賃作夫使用之義過般及步照

會、概、有、と、其、後、新、田、移、本、互、地、經、
會、の、領、序、の、因、り、新、田、の、領、更、止、し、其、日、の、
集、り、の、後、

一、新、田、の、津、田、の、復、方、法、の、廢、止、稻、取、の、津、田、
の、稻、取、は、二、四、八、十、日、稻、取、後、津、田、の、經、り、稻、
本、の、復、依、り、稻、取、の、於、り、毎、日、午、前、六、時、並、出、
仕、出、し、郵、便、利、本、の、到、着、時、間、の、量、り、其、日、回、地、
の、脚、夫、差、之、郵、便、物、交、換、持、戻、尤、此、往、返、昔、津、田、
之、寄、り、郵、便、物、交、換、方、取、計、し、積、

但、稻、取、者、之、脚、夫、賃、金、高、額、に、因、り、復、方、法、
の、復、方、法、の、廢、止、の、由、り、

復、方、法、の、廢、止、の、由、り、一、復、方、法、の、廢、止、の、由、り、
一、復、方、法、の、廢、止、の、由、り、

一、右、稻、取、諸、事、脚、夫、復、行、の、津、田、一、時、間、一、時、間、
中、之、入、其、日、の、全、日、難、信、之、故、一、時、間、一、時、間、
之、定、規、に、差、少、し、稻、取、の、由、り、復、方、法、の、廢、止、
ハ、一、六、の、給、り、半、の、故、に、清、取、可、と、其、日、の、復、方、法、
之、復、方、法、の、廢、止、及、清、取、命、り、

明治九年十月十八日 新田縣 取、返、

大正縣 同、縣、



Handwritten text in vertical columns, likely a list or record of items or locations. The text is faint and difficult to read in detail.

御所御料

御所御料

Main body of handwritten text on the left page, organized into vertical columns. It appears to be a detailed list or account.

今般足柄縣之國之縣令等
一、
同日、
得、
之、
度、

九年、

大正縣同業會

本、
權、
准、
法、
度、

他、
年、
法、

青森縣同業會

九年、

青森縣

大迫靜岡縣令殿

御下見列宿取日大川八橋之兩地之經
手吉田之之七ノ里程浦手合計ノ里程之相成
毎ノ毎地間其内訳官程道ノ宿取郵便取
扱後ノ下間ノ如別紙第一角中出ノ寸ノ會津
有難ノ事ノハハ地ノ事知致ノ度此信及傳照
命儀也

御下見列宿取日大川八橋之兩地之經
手吉田之之七ノ里程浦手合計ノ里程之相成
毎ノ毎地間其内訳官程道ノ宿取郵便取
扱後ノ下間ノ如別紙第一角中出ノ寸ノ會津
有難ノ事ノハハ地ノ事知致ノ度此信及傳照
命儀也

町嶋駅通頭代地

九年六月廿一日

大迫靜岡縣令殿

一 龍岡郡 大迫町 大迫

靜岡縣

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

九年九月廿水災一者救助

人数拾貳人

人数拾貳人

此年之廿九年
代金拾貳圓二拾貳錢五分

甲拾人
乙拾人

此年之廿九年
代金拾貳圓二拾貳錢五分

人数拾人

人数拾人

此年之廿九年
代金拾貳圓二拾貳錢五分

丙拾人
丁拾人

若原郡

御園村

一、口拾人
二、口拾人

一、口拾人
二、口拾人

甲

北久間村

代金

静岡縣

女一人
男九人

伊豆

此年五月廿五日
此年五月廿五日

他
此年五月廿五日

家数

田部

一人數

仁田村

此年八月廿七日
此年八月廿七日

男一人
女一人

他
此年八月廿七日

此年八月廿七日
此年八月廿七日

家数

田部

一人數拾一人

肥田村

此年八月廿七日
此年八月廿七日

男二人
女一人

他
此年八月廿七日

此年八月廿七日
此年八月廿七日

此年八月廿七日
此年八月廿七日

家数

田部

一人數五人

塚本村

此年八月廿七日
此年八月廿七日

男一人
女一人

此年八月廿七日
此年八月廿七日

家數二戸

日部

人数九人

神島村

此系之4之末
代金五十四拾五文

男一人

他日部

女一人

他日部

家數二戸

日部

人数七人

南條村

此系之4之末
代金五十四拾五文

男二人

他日部

女一人

代金五十四拾五文

此系之4之末

他日部

家數二戸

日部

人数二人

四日町村

此系之井五合
代金五拾五文

男一人

他日部

女一人

他日部

此系之井五合

代金五拾五文

此代金五十四拾五文

代金五十四拾五文

合金七十四拾五文

代金五十四拾五文

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

八月八日 大森町 町民

九月九日 中火災救助一者

高部八重子

第八大区二十区

中野郡御園村三民

一 米山町 町民

遠藤文作

同 八十二区

同 郡山町 町民

副區長

一 米山町 町民

鈴木重之

同 郡山町 町民

一 米山町 町民

鈴木文五郎

此の金額は...

青田縣

同 日部 四日町村 千石

日部 四日町村 千石

此代金 同九拾五石

同 日部 南條村 千石

石井 喜壽 祐

同 日部 中津村 千石

松下 重長 門

此代金 同九拾五石

同 日部 細毛村 千石

高橋 八右衛門

此代金 同九拾五石

此代金 同九拾五石

同 日部 北谷古屋村 千石

木内 傳十郎

同 日部 南條古茶村 千石

二膳 半右衛門

此代金 同九拾五石

同 日部 山本村 千石

宇野 範古衛門

此代金 同九拾五石

同 日部 多田村 千石

山石 城孫兵衛

此代金 同九拾五石

系

同 郡 原 木 村 子 氏

一 全 部 同 主 格 銭

同 郡 長 堀 江 友 八

同 郡 同 村 子 氏

一 全 部 同

同 郡 長 七 枝 原 泰 助

同 郡 南 條 村 子 氏

一 全 部 同 格 銭 主 氏

同 郡 長 前 下 長 不 口 常 七 子 氏

同 郡 大 区 八 小 区 田 方 郡 同 日 町 村 子 氏

一 全 部 同 格 銭 主 氏

同 郡 長 中 野 町 村 子 氏 小 川 勉 之 助

同 郡 全 谷 村 子 氏

一 全 部 同

同 郡 長 小 川 為 良

同 郡 多 田 村 子 氏

一 全 部 同

同 郡 長 多 田 藤 主 郎

同 郡 北 芝 全 屋 村 子 氏

一 全 部 同

同 郡 長 木 内 七 郎

同 郡 原 木 村 子 氏

一 全 部 同 格 銭 主 氏

同 郡 長 堀 江 伴 藏

同 郡 同 村 子 氏

一 全 部 同 格 銭 主 氏

同 郡 長 須 原 敏 幸 氏 衛 門

同 郡 寺 家 村 子 氏

一 全 部 同 格 銭 主 氏

同 郡 長 内 田 吉 三

靜岡縣

同 同 郡南修村平氏

山田村右衛門

同 同 郡中多子村

野澤貞清

同 同 郡南多子村平氏

原正三郎

同 同 郡北多子谷村平氏

中川彌平

同 同 郡北村平氏

鈴木彌平

一 山田村右衛門

一 野澤貞清

一 原正三郎

一 中川彌平

一 鈴木彌平

十一年二月中各邑之長區務取締在一如し

開業許可之儀及之儀等之長區務取締在一如し

子一各區之長區務取締在一如し

九年十月中各區之長區務取締在一如し

不願出向者有之儀之長區務取締在一如し

其之長區務取締在一如し

今何様之情事有之儀之長區務取締在一如し

子一各區之長區務取締在一如し

明治十年二月二日

静岡縣令大迫貞清

争付系

前因誤入金返負割

一、靜岡縣、

十年十一月十日、

全府職員、

主、

下、

中、

上、

下、

十年十二月十日、

十年十月中区務取締、

種痘児之相渡、

配布、

方同所、

他申之、

出之、

一、種痘科收入全割、

可相納、

子、

静岡病院、

納可... 右之備種... 無使... 相傳... 子... 用...

明治十一年... 國醫... 大... 自... 清...

Vertical columns of handwritten text, likely a report or record, containing various characters and possibly numbers.

十年十月中

本年九月以來各地方格列刺病流行之憂方今
何地... 患者減步... 赴... 病... 治... 消... 滅... 之... 安...
相成... 於... 高... 局... 右... 患... 者... 及... 治... 命... 心... 死... 後... 之... 全...
數... 數... 查... 之... 候... 目... 下... 直... 著... 手... 可... 致... 苦... 之... 事... 員... 縣...
... 管... 內... 該... 病... 患... 者... 初... 祭... ヲ... 終... 熄... 追... 之... 人... 員... 姓...
... 所... 男... 女... 年... 齡... 真... 類... 治... 乱... 等... 之... 種... 別... 至... 迄... 別...
... 表... 式... 做... 稽... 確... 取... 調... 至... 急... 速... 向... 有... 之... 度... 比...
... 及... 其... 縣... 令... 係... 也... 係... 也... 係... 也...

内務省衛生局長

青森縣

明治十年十月十四日

大正二年

縣令

大正二年

大正二年

一 種痘之儀、各々一度之布達、概成、其有之
 一 如、免角、私漏、之流、其証、ヲ得、ル、ル、既、濟、
 未、濟、之、別、甚、不、合、明、有、之、殊、衛生、局、成、規、
 其、度、致、各、自、後、種、痘、医、之、美、
 於、統、轄、セ、ル、同、院、ヨリ、別、紙、証、書、用、紙、ヲ
 下、付、シ、其、内、一、般、同、僚、ニ、主、シ、メ、度、且、痘、苗、之
 美、ヲ、總、テ、病、院、ヨリ、下、付、度、答、ハ、依、テ、医、務、
 取、締、ス

争 州 系

十一年二月十九日豆別賀茂郡網代村出火
西風烈敷人家稠密之場所之數十分間之四
方延燒遂之戸數百五拾軒程燒亡為三日下
凍餓之迫之者五十四戸其供難差置一時步救
即之後申出之自速時出張實地取調之と云
相違分明治八年七月戸百六二號之布之照準
別紙谷之前之者也
如一日去不之合
如一日日之合
以救助取

十一年二月十九日豆別賀茂郡網代村出火

去十九日夜九大區上區網代村出火折節
西風烈敷人家稠密之場所之數十分間之四
方延燒遂之戸數百五拾軒程燒亡為三日下
凍餓之迫之者五十四戸其供難差置一時步救
即之後申出之自速時出張實地取調之と云
相違分明治八年七月戸百六二號之布之照準
別紙谷之前之者也

計、此段及下中、修也

一、救助人員貳百四拾五人

男百拾人

内十五歳以下二十人

女百拾五人

救助高

金百拾五圓之拾五錢五厘

此米八石五斗五升

災九大臣、若也

皆焼極分者

伊豆國賀茂郡細代村

一、五拾四戸

焼亡人 小松甚助

外五拾三人

本年九月十九日午後十一時比高村川口幸助物
置大川庄兵衛屋之間、積置、女房より出
火致し夫、消防方より得共折節大風
烈し西風より火烈し西風より火勢続々二十
分間、又延焼程、何物取出修問人
無之、五拾四軒者共實、皆焼亡、相成也

其日ノ極計ニシテ者共ニ因道仕ル各急速有志
之者ヨリ夫食事高差也信得共其向ノ西路
漫方ニ不及中目下飢渴ニ相迫リ信事事情市
情察メ成下御座前窮乏ノ賜下置度別紙
家後書相済以信奉懇願也

明治廿一年二月廿二日 青川縣代

明治廿一年二月廿二日 衣笠其六

相磯安兵衛

河口平之助

青川縣之大向白河段

明治廿一年二月廿二日 青川縣代

十一月二十九日 青川縣代 網代村 出火 何人知

本月十九日午後十一時比高村川口幸助物置大

川兵衛者宅ノ間ニ積置ノ薪ノ内ヨリ出火

致早速ニ既消治方ニ力付テ共人家稠密ニ傷

所折柄西風烈敷總ニ二公間ニシテ四方ニ

延燒致居宅百五拾軒 内半焼 隣者六棟物置二

拾七棟全ク燒亡仕怪我人等々之信得共ハ罹災

人之内地券証實印等燒失仕者ニ難計係共

取出シテ何物取調方未行届兼ニ追々調査

仕信得共存不取敢出火模様傳付申上

第九大区二十区富英郡細代村

加藤七左門 村田保 公三廿四廿

加藤七左門

静岡縣令大道貞清殿

可書伊保之趣相違を以て申上り候也

相磯安兵衛

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

十年八月十九日里列君伏部修善寺清法曹取調

書方一如し

一、金拾二圓六拾九錢貳厘三毛

此訳

金拾拾錢

是は出火中消防人足銀料之支消

金貳拾七圓七錢二毛三厘三毛

是は前同の簿大後ヨリ所檢込人足銀料之支消
他は石拾金七圓七錢

金拾拾錢

新拾貳把

是は前書銀米焚用之支消

青田集

金拾壹圓拾六錢八厘七毛兩貳釐計廿八升

是も鎮火之節遠方人足并一戻捲一寄返支拂

金之錢

是も右由多 塚囃料

金五拾六錢三厘

是も御用紙并蠟燭代支拂

十以金之拾之圓六拾九錢貳厘

右者本年八月十九日高田内所屬村湯川萬年外九戸焼

失火消防入費高田之區有遺存之同高田之賦課

取計一以是也

明治十一年八月十一日

高田町長 青田集

一人之拾五圓

小松甚助

但之三人之年均金拾之錢也

外五拾貳名

也今一般失火罹災人極貧員之者共之御

救助之成下正、請取夫之分配係如相違之

請水一同難有奉高之儀之惣代請去是也

細代村 惣代

小松惣助

青田集

靜岡縣

古谷小八郎殿

石村長助殿

相磯安兵衛殿

河口牛三郎殿

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

靜岡縣令大迫貞清殿

加藤七右門

衣笠甚六

村田保

賀茂郡細代村

第九大区(三十五)

去二月十九日高村矢火之際並山町生と産會社ヨリ右類焼困難之者共救助トシテ金四拾圓救助致具候間銘々訴子に候子別紙連名簿相添此候事届申上り也

明治十一年四月

靜岡縣

清司御合才也直武領

Handwritten text in vertical columns on the right page, including the title '清司御合才也直武領' and several lines of cursive script.

街下下指取邦便局のり之関中へ此のころの局
般及御照會一如大十七のり拾五條より別紙
繪圖而等添綴之街回答之趣了未改し之
内庫書寺村の邦便局設置之属に未了之通
一可取計積高四條二十寸の貳拾條より及御答置
一如往復行庫々同前等街に成し各是之照し
各地往復順序等ヲ改メテ及御通^高議一併之
一福取のり宇佐美通の並山間の一線往復回数
姑り先規之通据置更之福取のり久田間邦便
通線毎二回八十一日福取のり澤田ヲ經利本之

條同條

往復に都合しを福取流より並山ヨリ毎々前
 出時登之邦便物受取持戻此往返共澤田を
 一寄同引到者ヲ相心得積
 他往可江田ヨリ福本に往復便の相戻し
 一前書蓮臺寺村の間向に降下田ヨリ箕作間
 往可之線路ヲ廢上下田ヨリ蓮臺寺ヲ經
 箕作に達スル線路に變換タ下田箕作互地
 到之脚夫上下通行之節蓮臺寺より
 邦便物受渡方等取計積

但中文兩地脚夫の便ヲ不要

カハ向更正取之
 間之距離漸取調及脚夫往來諸事の
 送有之度此に及漸照會也

九月十八日 青島縣

大正縣國縣令

静岡県

[Faint handwritten text, mostly illegible]

十一年五月中製紙協同會社貸借抵借品...

貸借品目... 紙類... 印刷用品... 紙類...

静岡県

取計有之度此後街門酌改

明治十九年十月十一日 縣國縣令大石貞吉

國庫可取可取

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

九年十月十日 縣國縣令大石貞吉

取計有之度此後街門酌改

明治十九年十月十一日 縣國縣令大石貞吉

又

取計有之度此後街門酌改

又

取計有之度此後街門酌改

取計有之度此後街門酌改

取計有之度此後街門酌改

一 人民務備道路諸法案ヲ要ス
 一 御用車馬道諸法案ヲ要ス
 一 御休泊近傍御用心得トシテ向之人ノ相諾ル
 又ヲ要ス
 一 御用車馬道諸法案ヲ要ス
 但下歩相代ノ不及ニ付可路傍ノ傍止所南ノ
 一 御休泊相成御行可御馬車馬驅スルヲ
 格ナス
 一 御用車馬道諸法案ヲ要ス

一 揮、儀、便、可、地、整、列、之、禮、ヲ、行、可、レ
 一 水、火、消、防、人、足、各、持、所、之、器、械、ヲ、推、り、之、整、列
 一 係、官、員、及、之、長、之、指、揮、ヲ、受、入、レ
 一 渡、舟、場、之、取、締、結、法、人、相、諾、雜、當、之、様
 一 儀、案、致、ス、可、レ
 一 非、常、之、儀、ヲ、可、能、部、之、道、ニ、申、報、ス、可、レ
 一 瘋、癪、長、病、人、者、親、屬、之、注、意、シ、不、都、合
 一 儀、案、致、ス、可、レ
 九、十、月、三、日
 靜岡縣令大迫貞清

靜岡縣

今般

此後相持
第一相持
第二相持
第三相持
第四相持
第五相持
第六相持
第七相持
第八相持
第九相持
第十相持

明治九年十月十日

高内行徳大幸實則

靜岡縣令大倉貞清殿

心傳書

一 此内所傳之書其地之良及敬言部可各心
一 驛馬之傳之書可致且傳休泊所及街途
一 中其御守備下し了巡査可致也其
一 他傳此其書其判信所内便向也其不苦
一 志其服其河津其股
一 此其傳其街之書其令其子其街機燐
一 同其書其街之書其令其子其街機燐
一 各縣令其子其奉送傳之美公務之都合

系

右の通り申す所は各自の勝手丈にハラス
一 御宿御付御取設し并に渡船場任橋
架設及御像或は下洋所を掩蔽する事
一 御泊所・談話所官員清濁各御用弁は
御旅館近方の出張所可申事
一 諸献上物一切停止之事
一 御休泊の御座布設の事は御宿御付御取
設の上申し取計し
一 御宿御付の御付御取設し及ハス九車馬
等御路傍に差知サセ可申事

右の通り御膳部是代調津物業の通り是
御付可申事

令殿

御宿御付御取設し并に渡船場任橋
架設及御像或は下洋所を掩蔽する事
一 御泊所・談話所官員清濁各御用弁は
御旅館近方の出張所可申事
一 諸献上物一切停止之事
一 御休泊の御座布設の事は御宿御付御取
設の上申し取計し
一 御宿御付の御付御取設し及ハス九車馬
等御路傍に差知サセ可申事

標取計可有此紙三枚相取

九月十日

青森縣大正九年

此紙係由青森縣大正九年十月十日
地多及在去一月内所到紙
此紙係由青森縣大正九年十月十日
可相渡之紙係由到之紙
勝文ヨリヨリ申渡之紙係由到之紙

今般

白紙係由到之紙係由到之紙
相渡之紙係由到之紙係由到之紙
標取計可有此紙三枚相取

明治三十四年十月十日

靜 蘭 縣

一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人

一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人
一 街 治 縣 之 區 張 心 人 區 區 張 心 人 區 區 張 心 人

靜 蘭 縣

請
問
事

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

職上 一人

副 一人

副 一人

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

之後二御旅館近傍之土名之者

御令休

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

是二御旅館近傍之土名之者

系
問
事

静
明
集

今般

此句可解其意
此句可解其意
此句可解其意
此句可解其意
此句可解其意

此句可解其意

此句可解其意

此句可解其意

此句可解其意

此句可解其意

一 午时第十时街多集回十时十分街
操一子

一 午一集拆文及用器之事

但二子

一 午二集拆街集事

但二子

一 午三集拆街集事

但二子

此句可解其意

一 午一集拆街集事

争
明
集

一 他三の拍子

一 二拍子折律

他四の拍子

一 六拍子

一 九拍子

一 十二拍子

一 四拍子

一 八拍子

一 一六拍子

一 一六拍子

此度

一 行給被仰出諸事一御簡

一 可相成御進下可御行前

一 各區沿道之區

一 不敷之候之様候事可致之論

一 不都含有之

一 一層誠意之尽し事務

一 廻勉可致此候相違候

明治九年十月五日

静岡縣令 大迫貞清

青洲縣

青洲縣

今般

皇台宮行陪侍供奉之西、旅宿之姓名書

張也、可中尤様之字相用中間敷此旨、

御泊御各之狀、可相傳、

但御旅館所便之所、見易、居旅宿書

一紙、認、張也、可中、

明治九年十月十日、

藤岡縣大正、

...

大正十一年

藤岡縣

皇台宮行陪侍供奉之西、谷新田、松明百

本程用意致、可中、此旨相達、

...

明治九年十月十日、

藤岡縣令大正、

...

...

...

争州系

東海道一州

卷一

青島

東海道一州

物積蓄思其數場

此可謂也

皆取片而若之也

明後年九月止

卷一

東海道

卷一

東海道

卷一

東海道一州

內朽損之或數月前

枚揭其文字判然不致

散其可謂也

所一體或相之

此可謂也

明後年九月止

系

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

東陽道中記

Handwritten text in vertical columns on the left page, continuing the narrative or record.

青洲 興

和成屋此以及御津(伊)...

九月十日...

新島 歌仙頭

大分縣國野々...

Faded handwritten text in multiple columns.

10月 2日

皇太后宮... 一月八日東京...

行啓、作也、... 御旅館... 始、其、伴、共、破、損...

明治九年十一月

新島縣令大分直書

Faded handwritten text at the bottom of the page.

系

庚一月 青森縣 行 諸 被 所 出 一
所 之 條 件 面 臨 一 採 取 可 行 之 手 段 已
經 否 會 議 決 定 之 部 門 內 全 谷 取 之 海
取 取 取 一 十 一 例 案 一 種 之 類 風 害 之 患
等 事 均 合 議 計 案 并 取 決 實 行 之
聖 旨 採 取 諸 各 治 一 種 之 採 取 方 法 實 行 之
伐 木 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取
谷 濱 松 之 振 之 實 見 合 同 中 日 相 成 度 尤 是 創
之 採 取 場 所 狹 隘 等 事 可 採 之 全 地 之 採 取 之 採
之 採 取 之 採 取 御 用 之 採 取 則 持 取 一 種 之 採 取

後 可 斷 降 檢 査 等 事 計 一 種 之 採 取 中 之 採 取 者
此 條 及 採 取 合 併
九 十 七 二 〇 〇 〇

青森縣

庚一月 青森縣 行 諸 被 所 出 一
所 之 條 件 面 臨 一 採 取 可 行 之 手 段 已
經 否 會 議 決 定 之 部 門 內 全 谷 取 之 海
取 取 取 一 十 一 例 案 一 種 之 類 風 害 之 患
等 事 均 合 議 計 案 并 取 決 實 行 之
聖 旨 採 取 諸 各 治 一 種 之 採 取 方 法 實 行 之
伐 木 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取
谷 濱 松 之 振 之 實 見 合 同 中 日 相 成 度 尤 是 創
之 採 取 場 所 狹 隘 等 事 可 採 之 全 地 之 採 取 之 採
之 採 取 之 採 取 御 用 之 採 取 則 持 取 一 種 之 採 取

青
山
集

一 費用後... 侯者... 時... 侯... 侯...
侯者... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...

禁
同
禁

一
般

一 般... 侯者... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...
侯... 侯... 侯... 侯... 侯... 侯...

解
附
條

明治九年十月十日、内務卿大久保利通

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

精國瑞

二般

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

閣下、本年十月十日、

青洲集

一、予於諸君、皆休居所、可相與、入以家、
物、一畧、同、文、之、異、或、角、之、調、整、致、是、勝、文、
到、者、之、第、同、人、之、可、相、與、休、居、所、則、亦、
休、所、取、極、之、第、勝、文、之、可、中、評、以、
休、所、中、入、以、

予、前、言、不、行、於、前、也、予、亦、不、可、
予、前、言、不、行、於、前、也、予、亦、不、可、
予、前、言、不、行、於、前、也、予、亦、不、可、
予、前、言、不、行、於、前、也、予、亦、不、可、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

行、故、所、也、予、亦、不、可、
予、前、言、不、行、於、前、也、予、亦、不、可、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

皇國書林、古、東京、御、發、轉、部、

青
野
見

十一月二十日

[Faint handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side]

東一月大和國系京都

行幸 御乘馬並有馬才成

兼官内若十...

...

...

...

...

...

...

...

系

青
木

相
 入
 子
 不
 出
 品
 到
 則
 則
 一
 奉

谷大已

第一回

調
 谷
 中
 谷

争
州
系

青
山
集

同者ヨリ達有之ニ奉ル心得相違ニ

明治九年九月十日 藤岡繁久大内倉庫

前記

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

御前

御前

皇太后御前 皇太后御前 皇太后御前 皇太后御前 皇太后御前

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

御前

明治九年九月十日 藤岡繁久大内倉庫

藤岡繁久大内倉庫

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前 御前

系
列
系

御命

行泊

十 龍抄

二馬

十 龍抄

南原

十 龍抄

藤岡

十 龍抄

金谷

十 龍抄

龍抄

十 龍抄

龍抄

十 龍抄

龍抄

十 龍抄

龍抄

龍抄

今般大御所

御命 龍抄

御命 龍抄

御命 龍抄

御命 龍抄

御命 龍抄

御命 龍抄

御命 龍抄

系

青島縣志

清

卷

風俗

風俗之不振。非徒於禮。而於刑。亦不暇言。始於... 刑。亦不暇言。始於... 刑。亦不暇言。始於...

三

夫刑者。所以禁惡。而救世。非徒於刑。而於禮。亦不暇言。始於...

十

風俗

夫刑者。所以禁惡。而救世。非徒於刑。而於禮。亦不暇言。始於...

系

青洲
同治
庚申

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

[Faint handwritten text, mostly illegible]

今般

皇太后御京都御祭禮東海海節

東京之御御社仰各各各取

設、御休所所行出所可平常之備

使用似合不學之園所者修繕及配之

也御休所所建礼之御新観代換

ノ様其心之御御所有之度此院及此

御休所

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

系
系
系

青洲
小島
東山

乙卯年

一 諸君之...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 各縣令書記...

...

一 街道助竹...

...

一 川邊渡船場...

...

一 御泊駅...

...

一 諸献物...

一 御休泊...

解州系

青
島
縣
印

一 御前奉
路傍
古之外
後
之稱
一
一
一

天
二
大
元

同
水

皇
太
后
上
下



一 御前奉
路傍
古之外
後
之稱
一
一
一

明
治
十
年
五
月
廿
三
日

青
島
縣
令
大
白
倉
藏

解
州
縣
印

青
山
縣
史
記

御休泊所
於他家
并水以

可申也
御休泊所
於他家
并水以

此
御休泊所
於他家
并水以

十月十七日

青
山
縣
史
記

頁八十五

九月二十一日
神社
御休泊所
於他家
并水以

可申也

一
御休泊所
於他家
并水以

御休泊所
於他家
并水以

右
御休泊所
於他家
并水以

教
御休泊所
於他家
并水以

因
御休泊所
於他家
并水以

方
御休泊所
於他家
并水以

青
山
縣
史
記

青田縣

以下渡方... 係之... 裁... 申... 子... 女...

明治九年八月

青田縣人

由務者大久保利通殿

書向籍集... 全... 拾... 拾... 九... 屋... 高... 有...

...

明治十年一月十日 内務卿大久保利通

...

青田縣... 國... 幣... 大... 社... 之... 易... 神... 社... 大... 司... 司...

同... 秋... 外... 人... 司... 本... 社... 幣... 殿... 拜... 殿... 敷... 所...

...

...

...

此... 及... 上... 申... 修... 也...

明治九年八月

青田縣令大迫貞清

内務卿大久保利通殿

教部大輔宮戸磯殿

海關系

靜岡縣

書面之趣聞傳、奉金貳拾七圓拾貳分九厘凡
目的、着手可致、在經費諸方、一俟其落成
之、上地方長官、下農家、一積蓄、俾之、以內務省、
二年也、

明治九年九月日

內務省大臣 櫻井

教部大臣 齋藤

書面之趣聞傳、奉金貳拾七圓拾貳分九厘凡
目的、着手可致、在經費諸方、一俟其落成
之、上地方長官、下農家、一積蓄、俾之、以內務省、
二年也、

十年二月三日大
官署、後上申、於令、凡、如、
一、今、以、以、拾、拾、錢、以、爲、

本者、官署、官、大社、之、島、神社、現、境、物、

中、也、之、能、了、取、調、此、令、之、相、處、之、年、之、
至、之、心、何、令、之、情、指、揮、有、之、度、信、之、別、紙、仕
於、帳、系、繪、圖、而、之、中、以、及、之、世、也、

度、之、大、會、之、由、因、法、社、外、一、各、ヨリ、別、紙、仕
申、也、之、能、了、取、調、此、令、之、相、處、之、年、之、
至、之、心、何、令、之、情、指、揮、有、之、度、信、之、別、紙、仕
於、帳、系、繪、圖、而、之、中、以、及、之、世、也、

於、帳、系、繪、圖、而、之、中、以、及、之、世、也、

於、帳、系、繪、圖、而、之、中、以、及、之、世、也、

明治十年二月廿日

靜岡縣之大迫直吉

靜岡縣

青島縣

內務卿大臣保利通代理
內務少輔阿島繁殿

青島之嶺間所修條金貳百四拾八田八拾七
錢十二厘之已納者手致此籍於本年三月廿
日或前第一條取調可申也事

內務卿大臣保利通代理
明治十年四月十一日
內務少輔阿島繁

青島之嶺間所修條金貳百四拾八田八拾七
錢十二厘之已納者手致此籍於本年三月廿
日或前第一條取調可申也事

十年六月申官幣大社三島神社東西四廊
其境内提社其外共屋根回修繕入費是下
之候上申(明治十年)

明治十年四月十一日同濟

日語見全高比百四拾八田八拾七錢十二厘之
一全比百四拾八田八拾七錢十二厘之
皆官員
其外共屋根回修繕之候本年三月廿日

右者官幣大社之身神社東西四廊其境内提
社其外共屋根回修繕之候本年三月廿日
相同之如書面之趣聞所修全比百四拾八田八

青島縣

新田集

拾七美之屋ノ目的ノ著手致シ地同四月十八
日迄相成建シ取成ル必多事ノ内滿テ
足根回リ存外朽腐障ノ目的金高起過
ルル様結ノ者略テ杖等ヲモ撰合ノ者同シ
マシテ成ルニ付上入其見取調シ如書高
通相成ルニ就テ右金高下所有ノ度
候ニ付テモ候事申上申候

明治十年三月十日 藤岡縣令大田直清

内務省大工簿抄録
内務省少輔前島守久殿

吉高様兼高令致白路ハ因テ格ニ成リ申上

有ヨリ下ノ様事ニ付テモ御座ル事

十年九月申上 教言署署内拘留所建設入費
御下ノ金ノ傳上申 指令左ノ如シ

明治十年九月十五日
見論見高令致拾日抄録

一 金拾拾日拾錢

右者伊豆國並山田獄舎廢毀之内新格
子敬言署署内 引移拘留所ノ相成在来ノ物
置換様形足木増築ノ様目論見候事以
本年八月廿一日相同ノ如ク十五日書面ノ趣聞
届シ条拘留所建設ノ候ハ金貳拾日拾錢ノ
目的ノ著手致成ルニ精算候ニ圖面相成

新田集

靜岡縣

請取方可申也。右指入之。趣ヲ以著。此
程格或相成仕上。入費取調。如日論見高無増
減。出未。自書向全員。下海有之。度依之
出来形。緒。限圖。向。此。中。也。

明治十年九月十八日。 靜岡縣令大直貞清

書面拘面所建設。緒業高全貳拾四拾錢

高。可。下。渡。

明治十年十月九日。 内務卿大久保利通

十年九月日。 警務署。海分。警務。築。後。同。指
令。左。如。此。

海。之。從。之。保。衛。之。數。所。有。之。隨。時。浴。浴。輻。湊。之
類。之。敬。言。察。上。取。締。之。要。ス。ル。地。也。日。不。極。將
之。官。轄。父。ル。時。狭。少。一。氏。家。之。暫。時。之。約。之。借
受。不。取。敢。巡。査。之。取。置。之。續。テ。也。所。新。之。築。之
具。之。取。折。柄。本。縣。之。合。保。護。未。其。家。屋。之。見
ル。之。真。之。接。洽。之。事。也。日。敬。言。署。之。休。裁。之。設
ク。ル。之。場。之。漸。之。申。意。高。之。信。之。敬。言。署。之。一。部。之。力

靜岡縣

靜岡縣

如キ汝女之ヲ暫ク之難閣俾得共進之國費尙多
端之隆ニシテ以テ其如居之如今般護家之
都合有之由ニ必其度申出他之可能家
屋ヲ無之加と俗客中ニ外國人ニ不少其指
笑之而思惟スヘキ敢テ觀美ヲ欲スルニ非ル不
体裁ヲ極メ修ニ不不意之ニ
般別紙繪圖面其付録日論見下
新業仕度別其費用用ヲ沙汰シ合計
金之百ハ拾之四ニ拾之銀九圓ニ由ニ
總計金百圓ヲ相充其不足尙費用之要ス

ルハ金ノ金貳百ハ拾之四ニ拾之銀九圓ニ相
成俾合之計其如ノ不不不不不不不不不不
海洋可相成度依テ別紙略繪圖面其
付録日論見下其如ノ不不不不不不不不不不
明治十一年五月十日 靜岡縣令大迫貞清

内務卿大久保利通殿

書面同ノ趣聞在條金之百ハ拾之四
ニ拾之銀九圓ノ目的ニ著手仕済成之上
飛書ノ様ニ同相係ノ書ノ分請
可申也

靜岡縣

靜岡縣

明治十二年二月三日 内務卿大久保利通

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script]

十二年二月三日 内務卿大久保利通
指令第一〇〇〇

以下伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事
一、伊豆國知事及郡知事海村知事海分署知事

靜岡縣

靜岡縣

改定七費用之候ニ其ノ中ノ一ノ全額ニ

テ所増減ノ事ヲ決スル所ニ在リテ同

ノ事ニ付テモ其ノ事ニ付テモ其ノ事

ニ付テモ其ノ事ニ付テモ其ノ事

内務卿大久保利通殿

上申之趣聞海之

慶應義塾大学

行方不明ノ事ニ付テモ其ノ事ニ付テモ其ノ事

明治十二年一月一日

十二月二十二日

十一月十一日

十一月十一日

明治十二年一月一日

明治十二年一月一日

十一月十一日

十一月十一日

十一月十一日

十一月十一日

十一月十一日

十一月十一日

静岡縣

靜岡縣

十二日書付一箇簡會年全五十九拾九日七拾我
の目録の事は本國の事は精進の事は國司の事は
本國の事は本國の事は本國の事は本國の事は
本國の事は本國の事は本國の事は本國の事は
本國の事は本國の事は本國の事は本國の事は

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

内務口大久保利通殿

書付精進高上内官貴講求之金額は百

九拾九日七拾九日七拾九日七拾九日七拾九日

本國の事は本國の事

十一日十四日十五日

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

一

本國の事は本國の事

外

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

本國の事は本國の事

靜岡縣

靜岡縣

案高令八百拾日圓拾七錢之目的、着手一
致尤女堂之役因、同様、不都合別棟
建築之積、指合之趣、以別別紙
同前、出丈、引分、假子、屋根軒、出
例、格子、入費、金、或拾日金、増、
積、一、中、積、部、
簿、印、申、度、未、交、答、
形、積、系、提、
同、
積、
同、

内務卿大久保利通殿

書面積算高金、
高、
高、

明治十年七月十日 内務卿大久保利通

静岡縣

靜岡縣
其

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

十一年十一月申官幣大社之島神社幣殿是
社務所屋根修復之候上申指合左如

日論見可

一 金二百五十拾九圓七拾七錢

右者縣下伊豆國君沢郡官幣大社之島
神社幣殿拜殿是社務所屋根共兩漏
有之修繕之候大司司之町内清林外等名
別紙之備願之候申付更何之實地
檢査候處本社幣殿拜殿取合各
丙水初回、其他申付銅包等、丙水初回

靜岡縣

青田縣

年十月尚度之暴風雨之障樹木枝吹落
之弊之破損河瀉也未可之類之及還箇所
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終

有相成之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終
之可成丈之費不初高様積之者略終

明治十年十一月廿八日 青田縣令大迫自磨

内務卿大久保利通殿

青田之賑聞唐儀降日諭見金之百五拾
九日貳拾七匁之厚之凡目的者手致レテ活

青田縣

成上精並一階可及也

宣但竹葉三四條應予取調可申也

明治十年二月十日 内務卿大久保利通

Faded handwritten text in multiple columns.

十一月廿九日定此所ノ官林係事務章程
程左ノ如シ

第一条

官林関係ノ事務書ニ掛リテ多シ無量ノ漏奉
集ル物品ト共ニ保守スル也

第二条

管之スル事務書物品左ノ如シ
存置官林園所取調帳
拂下官林園所取調帳
明治九年改正等内官林簿

簿
冊
係

靜岡縣

同國土保安林及官林簿

同神社風致官林簿

同員外官林簿

同貸山官林簿

外官林地圖
官林全圖

苗木栽培ノ履書ヲ順次取調帳

苗木栽培一件簿

官林收入取調帳

官林關係書同綴

官林園所簿

往還並木帳

往還並木栽培一件簿

並木下場上居敷種借取調帳

地理寮官林報告

官林損木届綴

並木損木届綴

官林損木届綴

官林損木御拂代取之送達簿

並木損木御拂代取之送達簿

願同届綴

靜岡縣

青島縣

進奉/前

諸向進復

雙眼鏡 遠望

係印 十二顆

第三

官林之枯根等、風折等届出、實地檢視し伐
木せしめ札を以て代價ノ上等ニ拂下ル長官
ノ決ヲ取處分ス代價取立方ニ送達簿ニ
登記し稅外收入調掛ニ相証し上收稅
掛ニ廻し徵收し上納取計仕訳書ニ稅外

調掛ニ毎歲一月十日頃度ニ調査し上申

第四

往還並木之枯倒木風折等出し、區長
之會見分近傍人民ノ札せしめ代價ノ高否
ヲ見認得テ長官ノ決ヲ取處分ス代金徵
收ニ課中ノ達し全員姓名等送達簿ニ
登記し收稅懸廻し徵收し上納課ニ
交付ス該令ハ明治九年內務省乙第十五号
ノ條ニ照準しテ栽培費ニ充テ處分濟

青島縣

青田縣

主務之有目申スル事

第五

耕地及家屋ノ障碍等ニテ伐木ヲ請願セシメ実地ヲ檢シ内務省同ヲ經テ廣合ス
キ

第六

電信線障木ニ關シ長見合セシメ伐木ノ手續ヲ指示スルニ要シ
工部省廣合ニ據テ之ニ關シ電信局
會同セシム其ノ品ヲ工部省ニ送付スルニ所條ノ

第七
同廣合ノ事

野火官林ヲ燦シ情實ヲ推問シ若何課税
課税ノ上臨時出張官地ヲ檢スル等
都長
官地具狀ニテ廣合スル事

但燒木ノ上ノ薪火原申等詳記書
併方
經同ノ上廣合シ代金徴收スル事
如
リ上納ル別途其時限完納スル

第八

官林地所轄下ニ候明治八年内務省ノ事

静岡縣

青田縣

八拾三號公達之趣有之ト雖本縣九年十月
同日御指合之因テ學校維持ニ為官林地所立
木拂下願出之時ニ是町歩以下員外官林之内
ヲ以テ調査ス上内務省同テ經テ處分スルハ
キコシ

第九

官林無之木ノ地ヲ學校敷地ニ請願セハ敷
地係ヨリ協議次第實地ヲ檢シ成否之有無
ヲ以テ答フヘキ事

第十

官林簿内木數中木種増減アリハ其増減ヲ詳
記シ取纏メ一ノ年内度ニ内務省ニ上申ス
ハキ事

但多數減木アリ時ハ此限ハ非ス

第十一

官林苗木栽培ニ優者ハ年内務省乙第
七拾八号及同九年丙第ハ号拾号公達ニ
依テ苗木栽培 第一條ヨリ 之條例ニ基キ處
分ス上上申スル事
苗木栽培場取設スル事

青田縣

青森県

第十二

貸山年季長短及、継年季等取調其
節の中可致し

但拜信料ヲ收入スルハ稅外收入調掛ノ擔
當トス因テ同掛及收稅掛ハ上申ノ際相
譯ス可シ

第十三

官林ヨリ生スル物産ハ官林係、於テ取調簿
帳ヲ制シ地所貸渡等ハ内務省同テ經テ
處分可致し

但收入取扱、到テハ又前條ノ如シ官林中礦物
試掘等ハ地所、支障ナキニ於テハ勸告ニ関
スルハ第ニ課、於テ成規ニ通シ處分ス

第十四

並木下場土居敷等 是ニテ拜信故
裁令アリ 從之町ニ於
テ坪數ヲ精査シ帳簿ヲ備不取締ナキニ要
ス官用ノ節ハ何時ニテモ反地ノ請書ヲ
可取

第十五

但テ新田開闢ノ間數年
拜信料收メスルハ亦前條ノ如シ
係印ヲ用ユルハ呼出等ノ一用ニ指令割印

係印

ニ用ヒザル事

第十六

官林関係者官者ヨリ達シテハ課中協議
旅行スルニ到ラズ官ノ決リ仰ノ可シ
右者ハ課中ノ一事務ニテハ緩急順序
ヲ計リ先後ヲ明カシ事務淹滞ナク
ヲ要ス

明治十一年四月

十一年四月中臨時巡査徵募ニ付區長ヨリ送付ノ如シ
管下ニ於テ巡査志願シ者ハ幾百人ニテモ至
急徵募ノ上人員整頓次第内務省敬告視る
可居ル其徵募ノ方法ハ先ツ女族中ニテ南米人
望マリテ一般ノ士族輩ニ信用ヲ得タル者若ク
テ撰ビ之ニ一般ノ撰舉ヲ命ジ其被撰舉シ
者ハ不良不逞ノ徒ニテハ保証ノ責ニ當ラシメ
而シテ其者ヲ引率上京セシムヘク且徵募ニ
應ジタル上ハ平時ハ巡査ノ本務ヲ專トシ非常
ノ際ハ戦士トモ可相成旨徵募一同ニ為心得

係
係
係

置可申旨内務省ヨリ御達有るハ此ヲ以相
達ハ条此達書到著次是右ノ趣ヲ以達志
願之者取調整頃次第可届出候此旨初達

明治十年四月十日 青洲縣令大迫自清

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

今般内務陸軍両省之間ニ於テ一種ノ方法ヲ設
各縣ヨリ巡查ヲ招募新撰旅團ヲ編制之旨
以邊御縣ニ於テ最早招募ニ應スル者無之
趣仍テ當省御用掛人見察ニ付招募方周旋
之命ニ御縣下ニ差遣候間同人著之上ニ委細御
間取萬端係協談且御差込圖等可然係取計有
之ニ度尤同人私ニ周旋ヲ望ミ招募致シ候旨
旅費渡方其他公之取扱ハ統テ縣ノ願ニテ御
取扱可有之候乃別紙手續書呈付候水

奉旨照准奉東討可有之以此中追也

內務省轉前島密

辭因縣令大迫貞清殿

...

...

...

...

...

...

一招募之應し或ハ出願シテ巡查トシ新撰旅

團ニ編入せらるル者ニシテ其組ノ人員ニ本隊以上

其隊ヲ成ヘキ數ニ充ル者ハ願ニ依リ其組ノ依使

用せらるル可キ事

一其ノ組ヲ成ス自ラ其上下士官ノ地歩ヲ占ル者ア

ルハシ其輩ハ敬言視部令ニ在テハ敬言部補以上ノ

心得ヲ以テ勤務ヲ爲サシテ陸軍ニ屬スルハ其

人ノ性質技能ニ應ニ應等々官ノ心得ヲ以テ

隊員或ハ參謀部ノ勤務せらるルハ其輩ハ

一應招者ハ奉命ノ日又出願者ハ許可ノ日ヨリ

靜州縣

一日二十銭ノ膏ヲ支給シ旅費ノ十銭ヲ
以テ一日金壹圓五拾銭奉寄ル上ノ一日五拾五銭
ノ膏多ク支給シ又出兵ノ時ノ別ニ旅費ヲ給ス
但敬部補以上ノ膏ル者ハ其ノ應分ノ額多
ク支給スル事

一 出立ノ節金壹圓等ノ故ヲ以テ救神スル事
合テハ其人五圓以下ノ膏可給與セラルル事
一 日新旅費其ノ給與ノ膏等ノ金額ハ其地ノ官
ヨリ渡スル月終ノ心算ニ據ルハ併ニ地方ノ指
圖或ハ取扱ノ保スル事

吉村兵作

藤岡操平氏

何國國分

分國國分

何國國分

元十

何甲

父七

何十

何十

何十

明治十年四月十九日 櫻地 出發 同日十九日 着京
永樂町臨時検査代官ノ入會 同日同署 巡查心
得 奉命 同日 有馬三 等 大 敬部 隨

解州系

青田縣

行伊豫國守和身之出流日一巡回住居同七月
二日八日等因同日九月十日等因同日十五日
解職停仰被命為慰勞同平十二月廿七日
同五拾錢一賜信

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

昨主日巡香微慕之義及御津一知文中所集
尽有之尚中途停抑今般之旨趣其志
願之有無トモ農商トシ論カス微慕致し如
即今之形勢急ニ必要スル所一目的ノ達スルニ
先多クハ士族ニルト此微慕ハ陸軍微兵ト
自ラ性質シ固クニ一一般ノ法令ニ微慕カ
ラ行フ可クナト此ニテノ理由アルヲ以テ士族ニ
志願ノ者ニト明文ヲ掲ケタル義ニ依テ其
實ニ敢テ本人自ラ情登スルニ可クトモ他ノ將師

解州縣

青田県

議院の依り漸く志願の保つる者ノ如ク其
可ナル者ハ其ノ志願一筆一借一依リ必シク其ノ
明文ハ何拘泥ナク多少ノ勸奨誘導法
方其用有之ハ其ノ如キハ結局命令ニ由ル
志願者ヲ徵募スルト一語ノ際ニハ
可然ニ其ノ志願一筆一借一依リ

十年四月十日 内務省 勸奨局長 斎藤

勸奨局長 斎藤 勸奨局長 斎藤

近リ中文ノ釋凍ノ外又一種ノ旨 類アリ則テ
族中ニ此ノ志願スル者ハ甚ク多クハ
平素議論ヲ逞クシ時勢ヲ論スル者
類ノ然情家ノ可有之如此輩ヲシテ徵募
庶カシムルハ其ノ取テ大ニ用ヲ爲シ其
縣ノ取テ高方人心怖クハ際偶給論抗
議ノ骨子ヲ披キ其下鎮接上甚ク便
ル事ヲ接ノ利益不少是亦自今般徵募
ノ論議ヲ起シタル一原因ニ有之其
下ニ其後其勸奨ノ御旨日一モ

青田県

青田県

主として此微莫有之應し、佛氏尽力有之
度地、民彼西仰、初野、西海、賊徒、信
ふん者、如き、固より、時、論、後、サ、信
ふ此ホ、玉、石、同、撰、莫、カ、シ、他、ハ、信
害、ヲ、不、生、佛、深、信、信、有、ク、度、也、

...

元國書院本公傳

新同翠

菊地積平

...

...

...

青田縣

元四等巡查心得

藤岡學

吉村兵作

同業、南野、櫻、能、夜國、長務

夕、藤、上、藤、春、出、信、改、時、車、信、依、

為、厨、材、方、金、七、日、五、拾、錢、下、賜、假、事、

其、明、向、十、三、月、十、日、

敬、視、司、

青田縣

元四等巡查心得

臨時巡查人名

第八大区巡查心得
木村幸助

木村米吉

第八大区巡查心得
近藤重一

近藤繁三

第八大区巡查心得
吉村正吉

吉村澤藏

第八大区巡查心得
石原清作

石原清作

第八大区巡查心得
農八木幸八

青田縣

静岡県

八木喜重郎

第八大区八中區四町村
農久保田徳右衛門吉男

久保田久太郎

第八大区八中區四町村
農吉男

空伏源次

第八大区七中區住田村吉男
農

中村 長

第八大区七中區平井村
農保兵衛吉男

真野周平

第八大区九中區吉田村
農

胡和山寺入子

吉村兵作

第八大区九中區街門村
農

菊池清平

第八大区九中區木沢村
農平吉男

勝呂道

静岡県
静岡縣

新撰旅團人名

第廿八區 菅野村 菅野長房
平民

山田萬吉

第廿九區 菅野村 菅野長房
平民

村岡六次郎

第卅區 菅野村 菅野長房
平民

杉山喜七

第卅一區 菅野村 菅野長房
平民

福井小三郎

第卅二區 菅野村 菅野長房
平民

新撰
旅團
人名

青田 貞

源 辰五郎

第廿八区三十九区南江岡村
土族

織田正明

第廿八区六十九区北生野村
平民

長倉小左衛門

第廿八区七十九区北生野村
平民

大城周吉

第廿八区七十九区肥田村
農地所有野郎

塩谷茂助

第廿八区七十九区肥田村
農地所有野郎

白井庄治郎

第廿八区九十九区柏久保村
平民

菊池文治郎

第廿八区九十九区柏久保村
平民

周田 鎮

第廿八区九十九区牧之野村
平民

土屋又平

第廿八区九十九区加殿村
農地所有野郎

科 軌 策

第廿八区九十九区大平村
平民

静 州 系

青川

十橋一富藏

第九大区三十三区下多賀村

福田大治兵衛

第九大区三十三区下多賀村

土屋三郎右衛門

第九大区三十三区下多賀村

野田勘兵衛

第九大区三十三区下多賀村

福田三兵衛

第九大区三十三区下多賀村

渡邊傳作

第九大区三十三区上野岩村

小川富吉

第九大区三十三区上野岩村

鳩谷認光

第九大区三十三区上野岩村

市藤玄太郎

第九大区三十三区上野岩村

松野仁之助

第九大区三十三区上野岩村

浄州系

青岡郡

提源次郎

美九大区五十四区小鍋村

鈴木仁平

美九大区五十四区小鍋村

鈴木倉次郎

美九大区五十四区小鍋村

渡邊市兵衛

美九大区五十四区小鍋村

山城露太郎

美九大区五十四区小鍋村

井上文三助

美九大区七十三区中村

竹腰松太郎

美八大区九十九区中村

小松野仁助

美九大区九十九区上野村

平井市太郎

美九大区九十九区上野村

近古文吉

美九大区九十九区上野村

岩屋村

靜岡縣

鈴木京吉

鈴木京吉

鈴木勝藏

山本助藏

山本助藏

鈴木京吉

板垣庄兵衛

私立病院設立之願

一 私立病院位置

第八大区九小區何屋園田方郡吉田村
七拾六番地吉田病院ハ留フ

一 院則

一 診察時間

午前第八時ヨリ正午十二時ニテ
急病此限ニアラス 無料

午後ヨリ廻診半里以内歩行半里以外
人力車或ハ來馬ノ車

車馬賃金七錢五分七錢兩中夜中ニ割増ノ
但貧困ノ者ハ此限ニアラス

一 調合時間

午前第八時ヨリ
正午十二時ニテ 臨時ハ此限ニアラス

一 藥價

但藥品ノ上下ヨリ五等ニ分ツ

一 一日科

一等金十五錢 二等金八錢 三等金六錢
四等金四錢 五等金二錢

静岡縣

亦百圓之利子... 金七圓貳拾四... 社人共ヨリ出金取賄係積リ、御座係
右之通設立仕度此段奉願係也

借社人

同区大正十区

石原郡熊枝村

竹村五百枝

明治九年五月二十日

同区大正十区
田方郡牧之御村

飯田康雄

同区大正村

杉村文次郎

久保田守吉

杉村茂之郎

遠藤惣右之門

杉村行三

世谷半吉門

野坂庄兵衛

増井与作

菅沼子左郎

豊田半七

村岡國太郎

山本与四郎

解州系

青岡縣

靜岡縣令大迫貞清殿

原 甚之助

原 善太郎

德 積忠左衛門

和 多備印

原 利之亮

菅 沼之丞左衛門

福 本安左衛門

脇 田源八

土 屋平右之門

井 上 榮

區 移可移

同

同

同 之 福 村

同

同

同

同

同

同

靜岡縣令大迫貞清殿

聞 届

明治九年十一月十日

榮 上

靜岡縣

第八大区
區長

各街道一里塚之後里程標杭建設濟古
境田蹟ヲ是終一里塚ノ相用ニ或ハ大樹生之佳
還並木ニ連接シ又ハ日標等ノ相成自然道路ニ
便利ヲナスモノ等ヲ除ク外耕地ヲ駭陰スルカ如
キ有害無益之塚丘ハ廢毀シ不苦旨其功ヨリ
建之趣モ有之ハ將木保存可致置見込無之介
ハ廢毀シテモ差支ヒキ事由及地積立本以隣
景況等ヲ詳記シ實地明瞭ノ因西相係

淨州縣

青島縣

廣令方可願也。標東海道節取村之可相達此
如相達也

明治九年十月廿五日。 濟國縣之大向直清

此圖之內容... 濟國縣之大向直清... 濟國縣之大向直清... 濟國縣之大向直清...

第八大圖

第八大圖

家祿奉還之者... 柵下之... 則其八... 一月之十... 柵下之... 此家之... 柵下之...

解州縣

第之課、為任出可申立丈量檢査之命出張改正
係之者實地照見可及余其際不都合等之様可相
心得、此等相違、

他既、實地丈量檢査之村、別改正懸之者
照見及修問同様可相心得、

靜岡縣令大田貞清
九年八月九日

入為所賣之山林等、即前式、

五編圖

驗何
圖

各大区之戸長

昨九年分地租全收入之後、本年二月十四日、以
相違、通地租改正數、頓次第、殘額、精算完納
之、其、方今地所賣買之、餘、右、父、等、上、納
方、前、子、等、致、置、追、了、徵、收、之、節、不、都、合
無、之、相、違、了、可、相、心、得、否、區、内、無、遺、漏、可、致
謝、

明治十年五月廿四日

静岡縣令大迫貞清

（Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '郡' and '町' are visible.)

九年四月廿

高縣改正之候上申指令下り如し

高縣管下大十區之區々之候も凡郡分之以相
定し各人口廣狹多分之處有之隨テ民費
ノ差ヲ生シ人民ノ於テ不便之虞不尠候間
地租改正濟ニ上又別人口ヲ以テ平均ニ区
畫致シ之度可相同見込ニ處今般足柄縣
ノ後何之國モ高縣管下轄ニ係付テ區々
改正シ給事分徒之町何之國テ四大区ヲ大
区大區ヲ送九大区ト改稱出シ之徒之町之
通稱也此之度此後亦同也

静岡縣

靜岡縣

明治九年四月廿七

靜岡縣令大谷直清

内務卿大久保利通殿

書向之趣聞取也

明治九年五月十二日 内務卿大久保利通

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

靜岡縣

今般足柄縣之慶何國之其縣上合併
相成之其是柄裁判所取也其何國
關之其是柄之二條案受取之同裁判所
之協議不都合之其可取也此其相成
但足柄裁判所之別紙之旨相成
明治九年四月廿七 司法卿大木高任

靜岡縣

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

足柄裁判所

今般足柄縣之奈相模國之神奈川縣之何三
國之隣國經合保相成之旨其裁判所
務相模國之關之今之神奈川裁判所之何
三國之關之今之隣國經之引渡可申以
相傳之

但神奈川裁判所及隣國經之別紙
相傳之
今般足柄縣之奈相模國之神奈川縣之何三
國之隣國經之引渡可申以

九月十日之何三國之鄰地之
白移合在之如

今般足柄縣之奈相模國之神奈川縣之何三
國之隣國經合保相成之旨其裁判所
務相模國之關之今之神奈川裁判所之何
三國之關之今之隣國經之引渡可申以
相傳之
但神奈川裁判所及隣國經之別紙
相傳之
今般足柄縣之奈相模國之神奈川縣之何三
國之隣國經之引渡可申以

手付保送及作問從計之通事上及上廳之
為任及此後在國中候也

明治九年五月

靜岡縣令大迫直清

内務卿大久保利通殿

書面之趣聞之件也

内務卿大久保利通代理

明治九年六月廿日 内務卿輔林友幸

今辨及所辨之趣聞之件也

此の如し

静岡縣令大迫直清

九月廿日 伊豆國事務受取付書目左り如し

旧足柄縣令板本忠俊より本月廿五日 伊豆

國事務請取付書に所屬島より事務請

取付書向所付之件に依り申上り也

明治九年五月

靜岡縣令大迫直清

大臣大臣之條に實主大臣

内務大臣大久保利通より

静岡縣

青森縣

十一年四月十日
内務省
官林
雜木
下
...

十一年四月十日
内務省
官林
雜木
下

官林及別立林

一 雜木 四万二千或拾五本

此把數或万五千或把

此代金一萬或拾八日

但高野明林十一年三月十日

割合代林代價

官林及別立林

一 及別拾町步

杉檜苗木

青森縣

山坪

此

以代金

杉五万五千

以代金

檜

但雜木向梯跡地起迄

高木植付場所

杉五万五千

以代金

本年ヨリ

同村

買入地

松杉

外雜木

杉

減少

山林

耕地

作物

山林

青森縣

有之依子今般一村協議より上右官林松
杉ノ良材ヲ隆新木ニ裁新出候之外難用
之木品ヲ新木ニ修拂下ノ裁同村ヨリ之願就
伐採ノ跡地本年ヨリ明治十二年迄毎稅感渡
之所得者苗木植付地下草刈取り起返之地存
其他之費用之者地味適合之樹木仕立之度
自村民希望之因之辨登不敷裁然レ處
伊豆國官林之裁者一昨ハ年中於地理
率調査濟之度高縣ニ別候改正帳簿
之之同ノ官林等級及其他地味等判然

不致一問一應實地之早況及調査處
前書拾町歩之場所尤杉檜ノ適合之良地ニ
ニ他ノ良木森林列可致殊ノ運般ニ至辨ナル
之村民願之通本年ヨリ同十二年迄二十年
間之稅感渡同十二年春之より更ニ返地中付
苗木植付之積尤杉檜積選之苗木之而向
代價ヲ以買上植付諸費及向二十年間培養
等者前陳之通り村民ノ於テ積々入念可致
且ニ右場所ノ植付後杉檜實地初之應成
之月之尚又同所ノ外、拾町歩場所見之

靜岡縣

書
部
典

苗木栽培可致積弊本步併下代價不相
當之問願之趣其詳可有之度依之

之洋同前之趣同之

明治十年四月廿日

辭同野之大迫自備

内務少輔之町島密殿

書面之趣難聞由係

内務卿大久保利通代理

明治十年四月廿日

不致同前之趣同前之趣

十年之月中官林監守人給料金額之改正同
指令左ノ如シ

伊豆國天城山口監守人
俸月久之

一 金七拾二圓九拾四錢八分
全額六兩五匁
塔谷幸友

一 但從前監守人給料之金々々之明治六年
奧田平六

日同八年迄四年柄懸於之支給之石代之町同相

場之以上本行ノ編更ノ金々々之改正ス

伊豆國田方郡田草村監守人

一 金拾九圓五拾四錢四匁
相原隆平
利孫友

解
州
縣

一 但此町商人等、明治九年、給米、計、八斗五升、之、明治十
年、同、八斗、五升、是、相、料、給、米、計、八斗、五升、之、同
相、場、以、上、金、一、道、九、四、五、拾、七、銭、五、厘、相、成、主、或、入
令、本、行、通、更、金、給、改、定、又

伊豆國賀茂郡下田町監守人

一 金、一、拾、五、圓、九、拾、七、銭、四、厘、
中、田、市、左、衛、門、
式、年、國、一、

一 金、一、拾、五、圓、九、拾、七、銭、四、厘、
但、是、町、人、等、之、給、米、之、石、五、斗、之、明、治、十、年、
計、金、一、道、九、四、五、拾、七、銭、五、厘、
十、年、之、同、相、場、以、上、金、一、道、九、四、五、拾、八、圓、九、拾、八、銭、五、厘、

相成、一、条、或、入、令、本、行、通、更、金、給、改、定、又
右、官、林、監、守、人、給、料、之、裁、是、迄、大、藏、者、之、
受、取、米、一、斗、九、斗、九、斗、之、十、斗、之、同、相、場、以、上、
以、米、御、者、之、御、渡、可、相、成、子、之、止、米、渡、之、令、
一、斗、代、簡、之、金、給、之、積、取、調、一、斗、代、簡、之、同、相、場、
之、同、明、治、九、年、七、月、以、降、右、金、額、之、同、相、場、
相、成、度、之、同、相、場、也

明治十年之同相場也
内務卿大久保利通殿代理
内務省輔之町官監守人



書面之趣聞届候

内務卿大久保利通代理

明治十年三月廿五日 内務省輔之助島田

（Faint handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document.)

十年二月中伊豆國細代村官林之根株堀取之
後再向吉指合之方ノ如シ

一 根株六百七拾株

以代價之日之拾五錢

但堀取期限明治十年八月五日限

右者東京府下第二大区十小區三田町町長目

拾九番地大野村之部三田町町長目別加賀郡

下多賀村相磯之安兵衛候細代村官林之内伐木

跡根堀取ノノ制表信願也調査之上明治

静岡縣

青
川
縣

九年五月分之日申領受同ノ趣聞届出
根株員數并代價取調堀取濟期限見
為相之申出同申六月廿之日申指合者猶
調査係根株員數之百七拾個有之代金之
目之拾主錢之九成在申農業業餘申以
明治十年八月十五日限屆堀取度申
實心相違相聞係申出之趣申由書由
代金取之申納可仕此趣相同申
明治十年二月十日 青川縣令大迫直信
内務卿大久保利通殿

書面之趣聞届出

内務卿大久保利通代理
明治十年二月十日 内務省前白河官

青川縣

Blank page with faint vertical lines and ghosting of text from the reverse side.

十一年四月中皇初細代村官林内松根堀取濟
之候届書右ノ如シ

一等一級
字細代山

伊豆國賀茂郡細代村官林内
テール制之由

一松根六百七拾株

根株步掛下相成ノ分

右細代村官林之内先年野火延焼其他風損
等ノ于伐木相成候根株堀取テール制家造之爲
相當代價ヲ以テ掛下ニ候東京之由甚重町造丁
目矢野庄之郎外志人ヨリ也願其收去ル明治
九年五月中相同候處同ノ處同ノ趣聞ニ由テ未
堀取濟之期限見込テ相之向可申出テ同年六

月九日申指令官根株員數取調代金上納
 昨十年八月十五日深地取濟可相成段開申示後
 若手申途ニシテ製製造人病氣掃府致上且農業
 餘暇ヲ以人支相雇係各地取方不撓取時日
 為遷延終ニ期限過去、不得止本年三月亦言
 子迄延期願出事情無餘候次第ニ相聞係開昨
 一十年十月申再應相同同月九日付以同通
 御許可可相成其旨申渡置係復前々亦延
 期ハ限迄書面根株悉皆地取濟之趣
 上今般申也、此限及傳由係也、
 明治十一年四月九日
 靜岡縣大分官下上事務

今般高國一曰靜岡縣之合併、係付人民
 一同敬戴遵奉政令、勿論、係ニ共
 之懷、古之慕、人情難止候、係復
 亦列之候ハ官民久敷相識相親係、
 以際大、失明ノ情アリ、思相心ス然、
 世軍ノ進歩ト變遷スヘキ勢トシ、熟思
 之怪ラス疑ハス衆庶其業ニ安トス可レ
 貞清等亦保護ノ務ヲ各ニ公法成規
 之因テ土地人民之適不ヲ酌量セ可改

靜岡縣

乃々改メ可存ハ乃々存シ百般ノ事務
滞滞ノ憂ナカクシ事ヲ期ス因テ
先大小区長事務取扱方ヲ定メ俟
付テ更ニ各自ノ職務ヲ勉勵シ小民
共ニ愛之目シ諸布達類ハ諒聞カセ杯
シテ上下隔絶不致様ヲ寫リ注意ニ施
政上可否又ハキ事アリハ決シテ無隔
意細大共可中間俟就中地租改正
ノ後ハ不容易重大ノ事俾ニシテ殊
ノ事九年ノ期限ハ何リムル事固國ニ美

青田縣

者専業ニ留マシテ俾ハ俾趣ハハハ
共猶以テ高麗等ノ事ニ成功ノ様
可心選總ニ何事ニ因ラス私利ヲ遠
サケ公儀ヲ重シト同心ニテ治安ヲ求
メ各自ノ職業ヲ相勵可申只事ノ當
不ヨシ間ツス一概ノ新政ヲ厭ハシ事ノ
美善ニ相致度ノ事ヲ必下ニ相達シ
別紙ニ趣山ノ町末ニハ漸次懇諭ニ及
此旨相達ス

明治九年五月

青田縣之大垣貞清

青田縣

Handwritten text in vertical columns, likely a memorandum or official document. The text is written in cursive Japanese calligraphy (sōsho).

青
田
縣

九月廿日申^時 務投所借用之美上申投合た如し

今般何國部事務轉々作付し

属島之事務取扱之方官頭出京為

致し付書者今申日所扱島之事務

取扱所從可從之旨借用仕度此

候申上申書

明治九年十月 靜岡縣之大迫貞清

内務少輔林友幸殿

書面申出之趣聞存

内務卿大久保利通代理

年月系

青田縣

明治九年七月七

内務省輔林友幸

青田縣令

内務省輔林友幸

明治九年七月

請周知令

到申

頃此所請...

...

...

...

...

九年六月廿日伊豆國所屬事務請在濟西九ノ如

向足柄縣令松本忠俊ヨリ本月廿二日伊豆國所

屬事務請取相済申候此以申上之也

明治九年七月

青田縣令大迫貞清

太政大臣之條實美殿

内務省藏書者ニ届書同文ナリ略之

争司系

青
田
具

内務大臣通商部大臣吉岡文之丞

大正六年三月三日東京

平岡正太郎 請願書大正六年三月

四月五日 請願書大正六年三月

四月五日 請願書大正六年三月

大正六年三月三日 請願書大正六年三月

金穀川渡目録

十金穀川渡目録 地味請願書

前

請願書大正六年三月

請願書大正六年三月

請願書大正六年三月

地味請願書

争
目
系

天正十一年

天正十一年

同 大正十一年 福松

同 大正十一年 八里平

同 大正十一年 吉

同 大正十一年 吉

同 大正十一年 藏

同 大正十一年 藏

同 大正十一年 藏

同 大正十一年 藏

同 大正十一年 藏

同 大正十一年 藏

